

事務事業名	赤ちゃんの駅設置事業				担当	健康福祉部 三つ子の魂育成推進室	
政策名	C	思いやりと安心に満ちたみんな元気なまちづくり			電話番号	0285-83-8157	
施策名	2	子育て支援の充実			☐ 実施計画上の主要事業		
関連個別計画					事業期間	☐ 単年度のみ	
法令根拠						☒ 単年度繰返（開始年度 23 年度～）	
予算科目	1. 一般会計	3. 民生費	2児童福祉費	1児童福祉総務費		☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）	
事業概要	乳幼児の保護者が外出する際に、授乳及びオムツ替え等が安心してできる場所を提供できる施設を「赤ちゃんの駅」として市内公共施設に設置することで、乳幼児をもつ保護者の外出環境を整え「あたたかい三つ子の魂」を育み、地域全体で安心して子どもを産み育てやすい環境づくりの推進を図る。 22年度から調査準備を進め、23年度にオムツ交換台等設置工事を行った後、「赤ちゃんの駅」を市内6箇所（真岡市役所、二宮コミュニティセンター、根本山自然観察センター、図書館、子育て支援センター、井頭温泉チャットパレス）に設置して事業を開始した。平成25年度は情報センター、平成26年度に第二子育て支援センター、真岡市民館、久保記念観光文化交流館を追加した。						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 28年度実績 ・赤ちゃんの駅として利用できる施設があるかについて全庁的に調査を実施し、平成28年度末に、まちなか保健室はっとステーション駅前館、田町館の2箇所を追加した。 29年度計画 ・赤ちゃんの駅利用の周知に努め、より使いやすい施設にしていく。 ・設置場所がないか検討する。	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
	名称	単位	25 年度(実績)	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(見込)
	ア 赤ちゃんの駅	力所	7	10	10	12	12
	イ 利用件数	件	264	282	298	675	700
	ウ						
	エ						
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 ・子育て中の保護者が利用する公共施設 ・乳幼児をもつ保護者	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
	名称	単位	25 年度(実績)	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(見込)
	ア 赤ちゃんの駅の設置が可能な公共施設	力所	12	13	13	12	12
	イ 0～2歳児を持つ世帯	世帯	1,974	1,958	1,905	1,880	1,860
	ウ						
	エ						
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） ・外出環境を整えることで、乳幼児を持つ保護者が安心して外出できるようになり、保護者同士の交流やストレスの解消が図れるなど、子どもを産み育てやすい環境となる。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
	名称	単位	25 年度(実績)	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(見込)
	ア 赤ちゃんの駅	力所	7	10	10	12	12
	イ 乳幼児世帯の赤ちゃんの駅利用の割合	%	13.4	14.4	15.6	35.9	37.6
	ウ						
	エ						
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） ・子育てしやすい環境となり、出生率が上がる。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
	名称	単位	25 年度(実績)	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(見込)
	ア 乳幼児の保護者が利用する市内公共施設数に対して「赤ちゃんの駅」の割合	%	58	77	77	100	100
	イ 子育てしやすい環境と感じている割合	%	100	100	100	100	100
	ウ						
	エ						

(2) 総事業費の推移				単位	25 年度(実績)	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
			県支出金	千円	0	0	0	0	0
			地方債	千円	0	0	0	0	0
			その他	千円	0	0	0	0	0
			一般財源	千円	0	0	0	0	0
			事業費計 (A)	千円	0	0	0	0	0
	人件費		正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2
			延べ業務時間	時間	200	200	200	200	200
			人件費計 (B)	千円	813	844	838	831	831
			トータルコスト(A)+(B)	千円	813	844	838	831	831

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	「赤ちゃんの駅」は平成18年板橋区の保育士が外出した保護者がオムツ替えなどで困っていた様子を見て区に対して「自由に使える赤ちゃんのスペースを設置しては」と提案したことがきっかけである。そこから手軽な子育て支援策として全国の市や町に広がり、埼玉県などは平成22年に県が「赤ちゃんの駅」事業として取組み、1年間で4,800か所がつくられた。真岡市では、庁内検討をし、市施設へ設置のための調査を行い、平成23年9月から開始した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは 5 年前と比べてどう変わったのか？	・手軽な子育て支援策として設置する市町村が増えている。栃木県内においても9市で事業が実施されている。 ・本市においても利用可能な施設が年々増えている。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	・安心できる場所で、授乳ができてよかった。（利用者）

2. 1 次評価の部 ＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか？	☒ 結びついている ☐ 見直し余地がある ・乳幼児を育てている保護者の外出環境を改善することは、「思いやりと安心に満ちたみんな元気なまちづくり」の政策に結びついている。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	☒ 妥当である ☐ 見直し余地がある ・オムツ交換台などを設置することは、地域全体で安心して子どもを生み育てやすい環境づくりの推進になり、妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	☒ 適切である ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある ・子育て中の保護者全体を対象にしており適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地はない ☐ 向上余地がある ・設置箇所を公共施設に限定していることから、古い既存施設に新たな設備を設置するのは難しいため向上余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☒ 影響がある ☐ 影響がない ・子育て中の保護者の外出環境が悪くなり、育児への負担感が増大され少子化につながる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	☐ 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） ☒ 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	☐ 他の事業と統合・連携ができる ☐ 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ （仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 必要最小限の経費で対応しており、削減の余地はない。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか（アウトソーシングなど）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 必要最小限の人件費で対応しており、削減の余地はない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	☒ 公正・公平である ☐ 見直し余地がある 子育て中の保護者全体を対象にしており公正公平である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） ☐ 廃止 ☐ 見直し（ ☐ ：目的妥当性 ☐ ：有効性 ☐ ：効率性 ☐ ：公平性） ☐ 統合 ☒ 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の 2 次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1 次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足（説明責任不充分） ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
			コスト																						
			削減	維持	増加																				
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
(2) 2 次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																									
(3) 2 次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☐ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(4) その他 2 次評価会議で指摘された事項																								